

東京は面白い!! 東京再発見マガジン/特集 東京で味わう郷土料理

エイムック1586

東京生活

2008 September no.39

東京生活

第2特集
風味豊かな美酒の虜
焼酎達人が太鼓判
今飲むべき
厳選焼酎30



東京で味わう 郷土料理

特集 旅するように日本全国の味を巡る

江戸前ずし VS 大阪ずし どう違う?

郷土料理の代表格

すしのルーツに土地の秘密あり

粉もの好き日本人の創意工夫がここにある

当世風郷土麺が人気上昇中

北海道から沖縄まで
風土を感じる
おいしい料理が
東京に大集結

服部幸應氏が語る郷土料理の魅力

【知恵と工夫の集大成が郷土料理です】

ご飯のお供に、酒のつまみに

美味なる郷土をお取り寄せ



島根 鯛めし



富山 ますのすし



三重 手こねずし



新潟 のっぺ



山形 いも煮



福岡 辛子明太子



岡山 ベカの酒びたし



高知 皿鉢料理



神奈川 釜あげしらす



長崎 大村ずし



大分 揚げナスのおろしボン酢



東京 飛魚のくさや



福島 会津こづゆ



日本大学「東京人」観察学会ゼミ主宰

後藤範章さん

日本大学に「東京人」観察学会ゼミがあると聞き
主宰の後藤先生を訪ねた。“写真で語る「東京」の社会学”と題した
プロジェクトに取り組んでいるそうだ。

後藤先生と一緒に、副都心線開業で賑わう新宿駅を歩いた。

写真・竹田正道 Photo by Masamichi Takezawa



Noriaki Goto talks about Tokyo.



従来の地下街は、雑貨店や喫茶店などの飲食店などが通路に沿って並び、商店街を形成する



新宿でもこのあたりは 古くからの地下街で 通路の両わきに小さな店が 軒を連ねていますね

日本大学に、「東京人」観察学会という活動をしているゼミがあると聞き、主宰の後藤範章先生を訪ねた。「東京人」観察学会では、1994年度より、「写真で語る…「東京」の社会学」と題したプロジェクトに取り組んでいる。

私達が後藤先生と待ち合わせた京王線新宿駅改札は、丸ノ内線新宿駅やJR新宿駅西口改札などに通じるところである。

「大阪、名古屋、京都、札幌などの地下街と基本構造が同じなのですが、小さな商店や飲食店が通路に沿って向き合って軒を連ねています。空間的に完結性の高い地下街が形成されています。ここ

から、地下通路だけを通って副都心線新宿三丁目駅方面に歩いて行ってみましょう」

私達は京王線の改札を後にし、JR新宿駅の西口を過ぎ、丸ノ内線新宿駅へ向かう。改札から四方八方に向かって、黄色い看板でA6、A10などと、地上への出口案内が雑然となされている。

「これが従来の地下通路のようすです。これから向かう副都心線の通路と見比べてみましょう。新宿の地下街の新旧の比較を通して、東京と東京人の変化を語ることができるかもしれません」

丸ノ内線新宿駅から、次の駅まで通路をひと駅歩き、丸ノ内線新宿三丁目駅へ。副都心線が開業するまでは、JR新宿駅方面から地上へ出ずにま

っすぐ歩いてきて行き止まりとなる地点であった。副都心線の駅が開業し、各線の「新宿駅」が地下通路によって相互につながったことによって、空間が拡張して一体化した。

さらに、新しくできた地下通路は、両わきに小さな商店も飲食店もない。目に入ってくるのは、企業の広告ばかりである。デパートの広告が目につくなどと思ったら、突然、強い照明に照らされたエスカレーターが現れた。このエスカレーターを上ってしまえば、そこは地上に向かってそびえるデパートの中である。鉄道の駅と商業施設を結ぶ地下空間は、人々を消費に誘う遊(誘)歩道の役

丸ノ内線新宿駅周辺では、黄色い看板で地上への出口案内が雑然となされる。商業ビルへ続くエスカレーターも地味で素っ気ない印象





新宿は、駅を核として地下と地上が一体化して、 スーパースケールのコマース空間になりつつある

目を果たし、消費者が主役となつて群舞するステージの上へと押し上げる。

感覚としては、ここはまだ新宿三丁目駅の構内（内側）で、地中にいるはずなのに…。

地上の世界では、JRの線路と駅ビルが、新宿を東口界限、西口界限、南口界限と分けていたが、地下通路を使えば、分断されていた地域を自由に行き来できる。

「新宿では、もぐらの巣のように張り巡らされた

地下通路と、リアリティー感を保てる地上と、空に向かつてそびえるデパート内とが一体化して、スーパースケールの商業空間ができ上がりつつあります。これは、丸の内や銀座などでも同じです」

東京は変化し続ける都市だが、ここ10年ほどの間に質的に転換したと、後藤先生は見る。

「個人の生活では、同じ場所でもまとまった時間を使つて一つのことを行うことが難しくなりました。空間も時間も行動も意識も断片化し、細切れ状態になっています。他方で、バラバラに細分化された部分をつなぎ合わせるものとして、メディア（情報）や資本とは別に、地下鉄を含む鉄道交通の働きが強まっています。それは、とりわけ東京で顕著になっているように思います」

10年ほど前にあつた「転換」を、ゼミの過去作品は確かに捉えていた。

「2001年に、"ちんちん電車も変身中—東急世田谷線のラッピング車両—"、"OH！ 弁当の裏事情—"東京"—という土壌に育まれて—"という作品がありました。"ちんちん電車"のほうは、規制が緩和され、電車やバスの車体に商業広告が出せるようになった。"転換点"を捉えた作品です。"OH！ 弁当の裏事情"も同様に、規制が緩和され、加工してあれば外国産米であっても堂々と弁当として売れるようになったという"転換点"を捉えた作品です。規制緩和や国営・有企業の民営化といった新自由主義的な政策、グローバリゼーションの進展に対応しているのです」と後藤先生は分析する。

「僕の1日を例にしてみしましょう。朝9時過ぎに①家を出て、②10時から11時45分ごろまで取材を受け、③11時45分から12時30分まで学生と食事をしながらゼミ活動について話をし、④13時から14時45分まで神保町の学士会館で人と会い、⑤15時



取材にはゼミ生の林さんが同行。左は紀伊国屋書店のものと対照的な伊勢丹のエスカレーター



Noriaki Goto talks about Tokyo.

から21時まで、途中10分の休憩を1回取っただけで延々と続いた会議に出て、⑥22時過ぎに帰宅しました。一日で、6つの場面を渡り歩き、それぞれに異なった時間に、異なった場所で、異なった状況・文脈の中で考えたり、話したり、行動したということになります。すべての行動は一つの脈絡に沿ってなされたものではなく、バラバラです。地下鉄を含む鉄道交通がそれらを相互につなぎ合わせ、支えているのです」

これは、オフィスで「マルチタスク」を行っている状況も、基本的には同じものととらえることができる。都会に暮らす東京人の多くが、このような環境の中で生活しているわけである。その結果、どんなことが起こるのだろうか。

東京の都心部を中心に、ありとあらゆるメディア、広告、宣伝によって、人々の欲望が刺激され、肥大化している。商品やサービスを自分で選んで手に入れていると思っていたとしても、メディアによる情報に心が動かされて消費させられているというのが実際のところなのである。

このような状況下に、私達・東京人はどう立ち向かえばいいのだろうか。どうすれば自分らしく生きていけるだろうか。

「一つ大切なことが、『見返す力』を身につけることかもしれません。僕がゼミプロジェクトで写真を使って『東京』の社会学の調査研究をしているのも、学生にそうした力を身につけてもらうための実践活動の一つだと位置づけています。例えば、撮りためた写真を再度見直し、『凝視』してみると、思いも寄らなかったようなおもしろいことを発見したり、新しいアイデアがわいてきたりすることがあるので、写真を見る・写真で（人や社会や東京を）見るという方法を、多くのの方々に一度試してみてほしいと願っています」

「東京人」観察学会 歴代ゼミ生の作品



1: 見せかけの銀座開放一エキストラとしての役割。銀座の歩行者天国を冷静な視点から切り取った作品。2: 「食」から「客」へーマクドナルド化最前線。客席を個別ブース化した狙いを読み取った作品。3: 「ホンモノそっくりのニセモノ（食品サンプル）」の発信基地一職人技の視覚効果（マジック）。かつて橋道具街の食品サンプル専門店に取材した作品。4: 野次馬を魅せる技ー江戸の火消し文化ー。下町七夕祭りを開催中のかつて橋本通りで披露された江戸火消しの梯子乗りを捉えた作品

©「東京人」観察学会（日本大学文理学部社会学科・後藤ゼミ）

第4回「東京」を観る、「東京」を読む。展

ーTVドキュメンタリーと社会学のシンクロナイズー

■主催：日本大学文理学部 共催：社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟（ATP）

■会場：日本大学文理学部百周年記念館のエントランスホール

■会期：2008年11月18日（火）～27日（木）の10日間 12:00～19:00

■展示発表内容：A. ATPによる「TVドキュメンタリーの世界ーTVの中の『東京』と『東京人』ー」展（仮題）

B. 後藤ゼミによる「写真で語る：『東京』の社会学 08」展（15回目）

■東京ドキュメンタリー上映会&講演会：

2008年11月22日（土）14:00～18:00

文理学部図書館3Fのオーバルホールにて東京を描いたドキュメンタリーの上映（学生の映像作品を含む）

鬼頭春樹氏（ATP専務理事／元NHKエグゼクティブプロデューサー／東京経済大学大学院講師）・

中瀬剛丸日本大学文理学部教授他の講演会（「映像の力・ドキュメンタリーの力・テレビの力、そして社会学の力」（仮題））

■参加料：無料